

## I：研究支援体制の強化による産学連携活動の活性化

自然科学系・人文社会系共に、研究支援体制の強化を図り、下記事業に取り組んだ。

- ① 自然科学系シーズを活用した産業活性化策の強化
  - ・「自然科学系産官学連携研究紹介集」（2010年3月発行分）を各種イベント・会議で配布することにより、積極的に本学教員のシーズを公開・普及させた。
  - ・新技術の説明会を計4回（東京2回・京都・大阪）行い、企業との連携を図った。
  - ・NEDO コンダクターを今年度も受入れ、学内にNEDO制度を普及させることに努めた。
- ② 人文社会系シーズを活用した地域活性化策の強化
  - ・「人文社会系産官学連携研究紹介集」（2009年3月第2版発行）を元に成果を積極的に外部に公開した。
  - ・2010年度は、文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）（旧「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）」）の最終年度であるため、本プログラム内において積極的に展開し、3年間にわたる事業の成果を集約した。
- ③ 文理融合プロジェクトの促進
  - ・文化情報学部のシーズについて、ニューズレター等により積極的に外部公開を行った。
  - ・中小企業大学校と連携し、中小企業経営者向け連携セミナーを開催。
- ④ 奨学寄付金、受託研究、共同研究、学術指導の受入  
下記の通り、外部資金を獲得。
- ⑤ 文部科学省、経済産業省などの公的研究資金の獲得  
（新規採択分）
  - ・科学技術振興機構「研究成果最適展開支援事業 フィージビリティスタディ・ステージ（FS）（探索タイプ、シーズ顕在化タイプ）」
  - ・科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業個人型研究（さきがけ）」
  - ・環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査」など  
（継続採択分）
  - ・文部科学省「イノベーションシステム整備事業地域イノベーションクラスタープログラム都市エリア型（発展）」
  - ・文部科学省「地域産学官連携科学技術振興事業費補助事業 大学等産学官連携自立化促進プログラム【機能強化支援型】（知的財産活動基盤の強化）」
  - ・文部科学省「地域産学官連携科学技術振興事業費補助事業『京都環境ナノクラスター』」
  - ・（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構「エネルギー使用合理化技術戦略的開発／エネルギー有効利用基盤技術先導研究開発／自律分散最適化アルゴリズムを用いた省エネ型照明システムの研究開発」
  - ・（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構「固体高分子形燃料電池実用化推進技術開発／基盤技術開発／低白金化技術」
  - ・（独）科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業チーム型研究（CREST）」など

## ⑥ 大型プロジェクトの管理・運営

経費について、適切に執行・管理を行い、検査にも対応した。2010年度1,500万円以上受入の大型プロジェクトについて、以下に記す。

- ・(独) 科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業チーム型研究 (CREST)」  
生命医科学部 教授 高橋智幸  
生命医科学部 教授 井原康夫  
理工学部 教授 土屋和雄
- ・(独) 科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業個人型研究 (さきがけ)」  
発達加齢脳研究センター 特定任用研究員 (准教授) 水谷健一
- ・文部科学省「地域産学官連携科学技術振興事業費補助事業『京都環境ナノクラスター』」  
理工学部 教授 稲葉 稔、教授 日高重助
- ・(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構「エネルギー使用合理化技術戦略的開発/エネルギー有効利用基盤技術先導研究開発/自律分散最適化アルゴリズムを用いた省エネ型照明システムの研究開発」  
理工学部 教授 三木光範
- ・NEDO「固体高分子形燃料電池実用化推進技術開発/基盤技術開発/低白金化技術」  
理工学部 教授 稲葉 稔
- ・文部科学省「イノベーションシステム整備事業地域イノベーションクラスタープログラム都市エリア型 (発展)」  
生命医科学部 教授 渡辺好章
- ・文部科学省「地域産学官連携科学技術振興事業費補助事業 大学等産学官連携自立化促進プログラム【機能強化支援型】(知的財産活動基盤の強化)」  
リエゾンオフィス 所長 長岡直人

## ⑦ 寄付教育研究プロジェクトの受入

(新規) Windows イノベティブ コンピューティング コンソーシアムの受入れ  
(継続) 10件 (寄付講座を除く)

## ⑧ 文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラム (機能強化支援型) (旧「産学官連携戦略展開事業 (戦略展開プログラム)」) の実施

今年度は、最終年度であるため、年度後半は、成果を集約させる作業を行った。

今年度の取組みとしては、下記の通りである。

- ・京都ブランド商標 (地域団体商標) について3つのブランドのイメージアップ
- ・「社会起業家養成塾」の開催
- ・「産学連携に役立つ e-learning 普及研究会」の開催
- ・「同志社大学産官学連携戦略委員会」の開催
- ・人文社会系産官学連携リーフレットおよびDVDの作成および配布
- ・成果報告会の実施、最終成果報告書の作成および配布

## ⑨ 知的財産権や成果有体物の社会への還元 (取扱い) 方法の見直し

継続して最適な方法を引き続き検討していく。

## II : 起業支援事業

D-egg を運営している独立行政法人中小企業基盤整備機構との連携を継続しながら、下記の事業に取り組んだ。

① 大学連携型起業家育成施設 (D-egg) の運営

「made in 同志社、made in D-egg」の実現に向け、入居企業の事業化支援体制を引き続き強化。本年は営業・販路開拓だけでなく、資金獲得及び人材獲得についても集中的に支援を行った。

特に、資金獲得においては、大学発ベンチャーコンテストへ初応募し決勝進出を果たすとともに、京都市目利き委員会へも初応募しAランクを受賞した入居企業が出た。また、大型補助金関係では、経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業に採択されただけでなく、その成果が成功事例として公表された入居企業も出た。

② 学生ベンチャークラブ (DVT) の支援：ビジネスプラン講座 (学生対象：課外講座)、ビジネスプランコンテストなどの開催、運営 (外部機関と共同、外部資金の活用)

ビジネスプラン作成合宿 (9/7-9)、ビジネスプラン作成講座 (10/12-11/9)、京都商工会議所との連携による起業相談会 (11/25)、等の実施、ビジネスプランコンテスト (12/18) の実施

③ ベンチャーファンドによるベンチャー企業育成支援

ベンチャー育成支援のため、各種ベンチャーファンドを継続的に保持

### Ⅲ：社会や地域との連携強化

地域に根ざした大学をめざし、社会との連携強化に取り組んだ。

① 産学連携交流会・講演会の企画・運営

・同志社大学リエゾンフェア (1月19日)、同志社大学・けいはんな産学交流会 (12月17日)、新技術説明会 (東京11月26日、大阪12月9日) などを開催

・京田辺市・(株)吉蔵エックスイゼットソリューションズ (D-egg 入居ベンチャー企業) が中心となって開発した外国人観光客向けの iPhone アプリケーションの開発プロジェクト (京たなべ iPhone プロジェクト) に参画した。

② 外との連携会議 (定期開催)

京都府、京都市、京都商工会議所：京都産学公連携機構会議、「京都発未来創造型産業創出連携拠点」推進委員会、「京都発未来創造型産業創出連携拠点」推進委員会実務会議、コーディネータ交流会・研鑽会

近畿経済産業局：産学官連携推進実務者会議

JSTイノベーションプラザ京都：JSTイノベーションプラザ京都運営委員会

関西文化学術研究都市推進機構：産学公連携推進会議、けいはんな地域産業活性化協議会 など

### Ⅳ：研究成果の社会への還元や知的財産の情報公開

効果的な情報公開を目指すとともに、積極的な研究成果の社会への還元に取り組んだ。

① 出展 (研究成果の発信の強化)

産学官連携推進会議、中小企業総合展 in KANSAI、中信ビジネスフェア、異業種京都まつり、京都産学公連携フォーラム、〈ナント〉農商工ビジネスフェア、池田泉州銀行産学官連携関西活性化フェア、京都ビジネス交流フェア、イノベーション・ジャパン、ビジネスフェア in 京たなべ など計 54 件に出展

② 研究にかかわる情報の発信および収集

ホームページコンテンツの活用、ニューズレター発行(年3回)、メールマガジン発行(月1~2回)、マスコミへの情報提供(KBS京都TV紹介、各種新聞記事掲載)

③東京地区での情報発信、産学連携事業

JST/CIC 東京新技術説明会(7月30日)の開催

JST 同志社大学新技術説明会(11月26日)の開催(本学単独での東京開催は初、8教員の新技術を説明)

JST 関西8私大新技術説明会(3月11日)の開催(東日本大震災により途中で中止)

(関西学院、関西、甲南、龍谷、大阪産業、京都産業、近畿、同志社)

④大学間連携によるシンポジウム開催

JST/CIC 東京新技術説明会(7月30日)の開催

京都地区大学・新技術説明会(12月9日)(京都、立命館)

京都産学公連携機構・京都発未来創造型産業創出連携拠点「大学シーズ説明発表会」(2月23日)

(京都学園、京都工芸繊維、京都産業、京都、京都府立医科、京都府立、奈良先端科学技術大学院、立命館、龍谷、同志社)

関西8私大新技術説明会(3月11日)(東日本大震災により途中で中止)

(関西学院、関西、甲南、龍谷、大阪産業、京都産業、近畿、同志社)

関東・関西10私大産学連携フォーラム(12月3日)

(早稲田、慶応、明治、日本、中央、東京電機、関西、関西学院、立命館、同志社)

龍谷大学ジョイントセミナー(12月13日)

京都産学公連携フォーラム(11月5日)など

## V:外部ネットワークとの連携強化

NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワークとは綿密な連携を図りながら、下記の事業に取り組んだ。

① NPO 法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク共同運営事業

- ・ビジネスアトリエの開催(6月~3月・8回実施)

講演者に社会起業家を招き「社会起業家養成塾」と連動

- ・「社会起業家養成塾」(5月~11月)

地域力再生プラットフォーム事業に採択

社会起業家を支援する取り組みにて2社を輩出

リエゾンフェア講師: 朽迫篤昌氏(同志社卒の社会起業家)の招致につながる

- ・京都ブランド活性化事業(通年)

「京あれ・京おかき」「京都産すぐき」について学生とのプロジェクト形成およびマネジメントの実施

京都における文化拠点・エンターテインメント拠点のあり方に関する検討として、

「学生主体の京都活性化についての取組状況調査」「伝統工芸・職人などの新たな取組事例調査」

「京都の外国人留学生・観光客に関する“京都意識調査”」「町屋・廃校等の有効活用事例調査」

につき、学生プロジェクトを組成し京都ブランド活性化に向けた取り組みを実施

- ・各種セミナーの開催

「今、産官学は新たなステージに」(2010年7月21日開催)(共催:株式会社池田泉州銀行)

- ②同志社校友会大阪支部産官学部会（LCC）、東大阪リエゾンクローバー倶楽部（HLC）との連携強化定例会に参加し、情報交換を密に行った。

## VI：その他

### ①東京リエゾンオフィスの活用

東京地区での情報発信を積極的に行った（IV③参照）。

### ②学研都市キャンパスの活用

動作解析実験室の管理と推進を行った。

### ③クリエイション・コア東大阪の活用

「第7回龍谷大学×同志社大学ジョイントセミナー」を開催。テーマは、「事業承継」。

クリエイション・コア内に大阪府の事務所「MOBIO（ものづくりビジネスセンター大阪）」が開設され、同センターで開催される各種イベントの参加を通じて、産学連携の可能性を探った。

### ④横浜企業経営支援財団との連携強化

横浜リエゾンポート2010(11月18日)に出展し、横浜・関東地区に向けて、シーズの公開・情報発信を行った。

### ⑤ 将来的な国際産学連携活動への取り組みに向けた海外連携拠点との連携についての検討

国際産学連携活動としては、下記の取組みを行った。

- ・D-eggにて行われたASEAN研修への協力
- ・知的財産センターと連携し、英文契約書雛形の作成
- ・海外機関との契約について、調整及び契約締結

### ⑥地方公共団体等における政策形成への参画

各地方公共団体への委員の派遣要請、各地方公共団体からの調査依頼等、各地方公共団体からの依頼については、積極的に受け入れた。

以 上